

キーワード

2 基礎的な知識・技能の習得

標 題

確かな学力を育て、人間力を高めるための I F (イフ) プランの実践

①学校の概要 (平成25年7月19日現在)

・児童生徒数57名 ・学級数7学級 ・教職員数12名

②取組を始めた経緯

平成23年度より「岡山県の学力・人間力育成推進会議」のモデル地域指定を受け、人間力育成に向けて学力向上をめざした研究実践を行っている。校内研究では基礎・基本を踏まえ学力の向上をめざし「教えて考えさせる授業」に取り組んでいる。

③取組の実施体制

有漢地区研究推進委員会で研究の概要を確かめ、研究主任者会で研究の方向性を示す。これを受けて3つの部会(授業研究部・学習基盤づくり部・地域連携部)が連携して研究を進める。有漢中学校校区の各校にも同様の組織を置き、それぞれ研究推進に当たる。

④学力向上に向けた具体的な取組

- 「もしこのような教育ができれば」という教育のあり方(I Fプラン)を追求する
- ・ I Fプラン1 「教えて考えさせる授業」の実践(1学期に2回、合同研修会を実施)
 - ・ I Fプラン2 学力・学習力のアセスメントテストの活用による学習改善・授業改善
 - ・ I Fプラン3 学習法の指導による学習習慣・学習スキルの定着
 - ・ I Fプラン4 授業外の学習支援機能の充実による個に応じた補充・発展学習の実施
 - ・ I Fプラン5 学校と地域の連携した教育プログラムの充実による人間力の育成
 - ・ I Fプラン6 授業外学習ポイント制度の導入による人間力の促進

⑤取組の成果と課題

「教えて考えさせる授業」スタイルが定着し、児童は見通しをもって学習に取り組めるようになってきた。さらに、ペア学習を通して、児童・生徒は、説明する手順を理解し、相手を意識した説明力は高まってきている。しかし、説明が一方通行で、お互いの考えを交流したり、融合させたりしながら高め合う力はまだ十分とはいえない。

⑥取組の継続・発展の要因

児童の実態に鑑み、2年目は説明力や聴く力に主眼を置いた授業実践を行った結果、少しずつ説明力が身に付いてきた。3年目は互いに考えを交流したり、融合させたりしてよりよい考え方を求めて「高め合う」ことをめあてに取り組んでいる。

⑦管理職・中核教員等のアクション

○管理職は、研究推進委員会の一員として、研究の概要や方向性を打ち出したり、関係諸機関とのパイプ役を務めたりしながら研究推進の大きな力となった。

○中核教員は研究主任や各部会の主任として、各校との連携を図りながら、研究推進に当たった。また、進んで研究授業を実施し、主体的に研修会に参加した。

⑧資料・写真等

